

# YWVOB 会 会報 No.63

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

<http://ywvob.com/>

2016 年 9 月 19 日発行

## ～ 63号の目次 ～

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| • YWV OB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・1     | • YWV 「歴史資料館」のご案内・・・・・・・・10 |
| • 2017 年度 OB 総会案内・・・・・・・・・・2  | • 部室に蘇る！青春の記録・・・・・・・・・・11   |
| • 2016 年第 2 回役員会報告・・・・・・・・・・3 | • 自由投稿                      |
| • 2016 年第 3 回役員会報告・・・・・・・・・・4 | ①14 期生 40 数年ぶりに集う・・・・・・・・12 |
| • 第 46 回 OB 山行（天城山）報告・・・・6    | ②プチヤマレコ連載第 4 弾・・・・・・・・13    |
| • 第 47 回 OB 山行                | • 現役部員の活動紹介・・・・・・・・・・15     |
| （上越線沿線の山）案内・・・・・・・・7          | • OB 会費納入のお願い・・・・・・・・・・17   |
| • 苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・8        | • 観天望記（編集委員会から）・・・・・・18     |

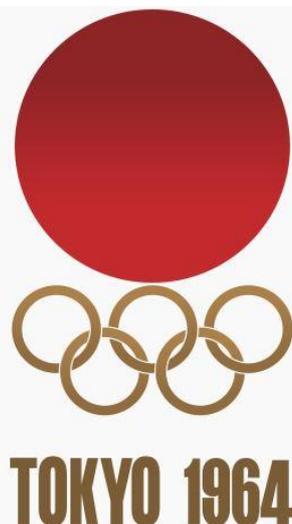
## ■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男（9 期）

「スポーツの祭典」なる東京オリンピックとパラリンピックが 2020 年に開催される。1964 年に東京オリンピックが開催され、浪人中の小生、机に向かうよりどうしてもテレビを見てしまったが、はや半世紀以上が過ぎた。一方 YWV はそれ以前に産声をあげている。その YWV は文化系サークルとして認定され、体育会（スポーツ）系サークルではない。ウィキペディアではスポーツを以下のように解説している。

《「sports スポーツ」の語源はラテン語の「deportare」にさかのぼるとされ、「ある物を別の場所に運び去る」転じて「憂いを持ち去る」という意味、あるいは portare「荷を担う」の否定形「荷を担わない、働かない」という語感の語である。これが古フランス語の「desporter」「気晴らしをする、遊ぶ、楽しむ」となり、英語の「sport」になったと考えられている》

ドーピング問題等で揺れた「スポーツの祭典」や YWV 活動並びに YWVOB 活動は、果たしてそのようなものであろうか。ただ現役部員数はここ数年二桁台となり、OB & OG の予備軍が着実に増えていることは実に喜ばしい限りで、サポートをしてゆきたい。



### 2017 年度 YWVOB 総会招集ご通知

会長 鈴木弥栄男

日時：10月29日(土) 10:00 開始

場所：横浜国立大学 常盤台キャンパス

教育人間科学部7号館 1階103教室

議案：活動報告・決算報告・予算案・会員入退会等現況報告、  
役員改選等

YWVOB総会は例年通りホームカミングデー(HCD)と同日開催になります。またHCDは昨年同様常盤祭(大学祭)開催日と重なります。総会もHCDも10時開始ですので、是非OB総会に参加し、HCDの恒例のイベントの一つとなった「ワングル企画展」(総会会場同一教室)をご覧のうえ、メイン講演(10時30分~11時30分)、ジョイントコンサート(12時~13時15分)等他のイベントにもご参加ください。

「ワングル企画展」では、スライド上映、山の写真展、懐かしいワングル装備の展示などを行います。今年は常盤祭に現役が模擬店を出す計画もあると聞いておりますので、こちらにもお運びください。

14時30分から第2食堂で開催されるHCD・交流会ではYW参加者が集まることのできるコーナーを用意していただく予定です。OB総会と交流会の両方に参加する人にはOB会から現金での補助がある予定です。

交流会のメとなるOB会の「みはるかす」斉唱は交流会の恒例となっており、今年も公式プログラムに掲載されます。OB会に限らず、全参加者を呼び込んで「みはるかす」を歌いましょう。

HCDのURLはこちら → <http://homecoming.ynu.ac.jp/>

(交流会にはHCDホームページの解説または各同窓会のご案内に従ってお申込みください)

OB総会参加手続き、名簿用住所確認等はメールでご案内致しますので、メールでご回答ください。メールアドレスのご連絡がない方のみ、返信用葉書(調査票)を同封いたしますので、葉書にて返信をお願いいたします。OB総会はOB会を構成する過半数の期から1名以上出席(委任状でも可)することによって成立します。期別幹事とも連絡を取り合い、各期極力ご参加いただけるようご協力よろしく願いいたします。

昨年のワングル企画展



昨年の交流会(みはるかす斉唱)



# 2016年 第2回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2016年4月16日(土) 13:30から、ミューザ川崎第1研修室にて第2回役員会が開催された。

【出席】嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、榎本(12)、山川(12)、赤松(13)、木村(17)、山下(17)、堀内(18)、山口(18)、磯尾(19)、笛木(19)、西田(20)、武藤(20)、安武(20)、木村(23)、吉田(23)、楠本(28)、松本(29)、親跡(34)、 <現役>福山 (58主将) 以上22人

## 【内容】

### 1. 各委員会報告

#### ①総務 (山川)

- ・会員へのメール配信を促進したい。現在、会員584人中、メールアドレスでデータ授受しているのは223人(38%)。

#### ②OB小屋 (榎本)

- ・五八木荘が閉鎖となる。預かっていたいる資材は小屋に移動する。
- ・GWに小屋整備を実施する(現役も参加予定)。5月末に、京大ヒュッテで企画あり。

#### ③編集 (武藤)

- ・62号は4/30発送予定。校正中の会報ドラフトを紹介。

#### ④OB山行 (山口)

- ・次回は5/21天城山で約8km、5時間の行程で前泊もあり。来週、偵察の予定。
- ・第3回は10/22大峰山~吾妻耶山で約11km、5時間の予定。

#### ⑤ホームページ (武藤)

- ・YWでフェイスブック(FB)非公開版を現在約100人が登録して使っているが、メルマガの補完などとして今回、公開版を作成したので今後活用方法を検討したい。

#### ⑥部史編纂 (山下、木村、笛木)

- ・部史編纂委員会規程では史料の原紙は保管せず、電子化された二次資料を保管することになっているが、原資料の重要性を考慮し、また部室での保管体制も整備されたので、原資料も保管する取扱いに変更することを決定した。
- ・部室の資料にインデックスをつけて整理した。

#### ⑦会計 (松本)

- ・16年度予算につき、収入が寄付伸び悩み10万円減、支出は予定通りで若干悪化状況(中間報告)。

#### ⑧現役からの報告 (58期 福山主将)

- ・現役活動につき62号会報ドラフトで報告あり。1年生は14人説明会に来たが、現時点では入部は未定。



現役 福山主将(58)

### 2. 現役とのコミュニケーション (鈴木)

- ・現役がOB会活動に参加しており、関係が深まってきた。今後、現役からOB会への要望をさらに円滑に実行し、現役にもOB会の魅力を知ってもらい、OB会への入会も円滑にする工夫も行なってゆきたい。
- ・具体的には、追い出しコンパ時にOB会のメンバーが入り直接勧誘する、資金面での援助項目を現役サイドで討議する(特別準備金活用含む)、大学を代表する部長との最低限のコンタクトは確実に、遭難対策につきOBが説明し現役の山行に活用してもらう、OB会入会後でも連絡が取れるようにメールアドレスなど名簿の整備をする、などをOB会から提案した。現役でも話し合ってもらったことになった。

### 3. 次回HCDについて

- ・10/29(土)に大学祭と同時開催。鈴木会長がHCD役員を担当するため、今年もYW企画展は円滑に実施可能

の見込み。

#### 4. 60周年記念行事について

- ・2017年がYWV創立60周年となるので、準備が必要なため、次回10月のOB総会で記念行事のやり方を決定する。そのために今回、7月、10月の役員会で内容につき審議する。以下、今回の審議結果。
- ・コンセプトとしては、50周年の時は大きな節目で初めての大きな同窓会として遠方からも多数参加した。この10年間活動水準も高まってきたので、その流れを受けて、60周年では「ワングルの輪をさらに広げる」ということでどうか。
- ・山行、山小屋、会報、総務（懇親会）の各員会で案を持ち寄り、次回具体的に検討する。尚、山行は2017年第3回が50回記念山行になる。また、山小屋は2018年が50周年となるので、連続企画で検討したい。

5. 次回役員会予定： 日時：2016年7月23日（土）13：30～17：00  
場所：川崎市産業振興会館 第1会議室にて

以上

## ■ 2016年 第3回役員会報告

幹事長 西田雅典（20期）

2016年7月23日（土）13：30から、川崎市産業振興会館 第1研修室にて第3回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、鈴木(9)、安藤(11)、榎本(12)、山川(12)、小浜(17)、山下(17)、堀内(18)、山口(18)、磯尾(19)、石垣(20)、西田(20)、武藤(20)、横溝(21)、山崎(22)、伊藤(23)、木村(23)、古川(25)、楠本(28)、松本(29)、小野(34)、親跡(34)、 <現役>市川 (57 4年) 以上24人

### 【内容】

#### 1. 各委員会報告

##### ①総務（山川）

- ・10/29開催のホームカミングデー（HCD）のワングル企画展は教育人間科学部7号館の予定。OB総会、大学祭も同日開催。メイン講演は学内ディスカッション方式の予定。交流会は第二食堂の予定。
- ・企画展とりまとめは松本さんが担当する。現地確認など事前準備、調整を行う。
- ・総会出席連絡の徹底を行う。また総会出席と名簿メンテナンスを個別に行う。

##### ②OB小屋（榎本）

- ・7月上旬に小屋整備を実施した（現役6人とOB10人の計16人）。次回は8/13～15で実施予定。

##### ③編集（石垣）

- ・63号は8/19原稿締め、9/19発送予定。

##### ④OB山行（山口）

- ・第3回は10/22大峰山～吾妻耶山で約11km、5時間の予定。
- ・来年度山行は検討中だが、第3回が50回記念山行となる（候補地、箱根）。

##### ⑤ホームページ（鈴木）

- ・HP画面の切り替え機能追加で改善した。

##### ⑥部史編纂（山下）

- ・公式ワングリング開示済み。歴史館の文書館整備、歴史館操作方法の音声案内整備済み。

##### ⑦会計（松本）

- ・現役からテント（6～7人用一張 124 千円）支援要請で 57 期市川さんから説明あり。審議の結果、特別準備金から充当することで現役、OB で同意、決定した。本件以外で OB 会支援が必要なものがあれば現役から提案する。

⑧現役からの報告（57 期 市川）

- ・新練 1 次は 5 月に甲武信ヶ岳へ、2 次は 7 月に鳳凰三山。夏合宿は 8/4～8 で北アルプス・雲ノ平で実施する予定。

2. 現役とのコミュニケーション深化

- ・現役で名簿を作成してゆくことを提案。また、HCD などの場で現役と OB の交流の場を作り、OB 会活動の説明や OB 会への入会促進を行う。

3. 60 周年記念行事について

- ・60 周年では「ワングルの輪をさらに広げる」というコンセプトのもと、下記イメージを基に次回役員会で最終案を固める。

（OB 山行委員会） 記念山行は 2017 年第 3 回が 50 回となり、箱根(仮)で懇親会、一泊、山行の計画。

（OB 小屋委員会） 翌年が苗名小屋建設 50 周年なので、2018 年に連続企画として行う。

（編集委員会） 会報は山行集（別冊）の作成や座談会などを軸に検討する。

（総務委員会、幹事長） 懇親会として HCD 当日に交流会の後の時間帯に学生会館などでワングルの集いを行う案で検討を進める。また期別幹事を確認し、次回総会の出席を促す。



役員会の一コマ「和気あいあいとした会議風景」

4. 次回役員会予定： 日時：2016 年 10 月 1 日（土）13：30～17：00  
場所：川崎市産業振興会館 第 1 会議室にて

以上

## ■ 第46回 OB山行（天城山：万二郎岳、万三郎岳）報告

OB山行副委員長 小野恵美子（34期）

〔日程〕 2016年5月21日（土）

〔参加者〕 嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、向井(5)、諸角夫妻(5)、松本(6)、佐木(8)、入交(佐木姪)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、竹村(13)、小口(14)、吉田(14)、中島(15)、萩生田(15)、渡邊(17)、白須(17)、山口(18)、壺井(18)、植草夫妻(18)、奏くん(植草孫)、磯尾(19)、伊藤(23)、親跡(34)、小野(34) 計30名

〔コース〕 天城高原ゴルフ場—四辻—万二郎岳—万三郎岳—涸沢分岐点—四辻—天城高原ゴルフ場

百名山に挙げられる天城山は伊豆半島のほぼ中央にある天城山脈の山々の総称で、今回のOB山行ではそのうちの万二郎岳（1299m）、万三郎岳（1405m・伊豆半島最高峰）を目指しました。演歌「天城越え」の妖艶な雰囲気はまるで無く、なだらかな山容で、5月の晴天の下、爽やかな山歩きとなりました。参加者は、恒例のドタキャンありドタ参あり、前泊組もあり遅刻者もあり。総勢30名の大盛況でした。初参加は向井さん、竹村さん、伊藤さん、そして特別ゲストの奏（かなで）くん。奏くんは植草ご夫妻のお孫さんで小学1年生、OB山行参加最年少です。

登山口の駐車場に、伊東駅からチャーターしていたマイクロバス組とマイカー組が集合。大きな輪になって開会式を行い、9時半に歩き始めました。ブナやシャラの豊かな森の中をゆっくりと登っていきます。あちこちでツツジの花が目を楽しませてくれました。万二郎岳は木々に囲まれてこじんまりとした山頂。万三郎岳に向かう山道は、楽しみにしていたアマギシャクナゲの群生地。残念ながら花のピークを過ぎていましたが、皆思い思いに写真に収めていました。万三郎岳の手前で昼食。大所帯なので食事も一層賑やかでした。万三郎岳山頂で集合写真を撮り、帰りは涸沢分岐を経て周回コースを進みました。登山口と山頂との標高差は350m程ですが、小さなアップダウンが延々と続き、かなり歩きでのある道でした。最年少の奏くん、しっかりとした足取りで歩き通し、見事完歩！行動時間約7時間で、元の駐車場にゴールインしました。世代を超えて山歩きを楽しめるのは素敵なことですね。OB山行の魅力の一つです。いつまでも自然と自然を愛する人間との関わりが平穩に続きますように。小さな背中を見つめて歩きながら、そんなことを思いました。

時間差でマイクロバスとマイカーに分かれ、それぞれ長い家路に就きました。皆様お疲れ様でした。



## 第47回 OB山行（上越線沿線の山）案内

OB山行委員長 山口貢三（18期）

大峰山、吾妻耶山は知らない方も多と思います。なぜなら超有名な谷川岳の手前に位置しているため、ほとんどの方が土合に向かう電車の窓からなげに眺めるだけの山なのです。かく言う私も若い頃は谷川岳に何度か通いましたが、手前にある山には関心すらなく、ましてや夜行列車に乗っていただけなので尚更です。

谷川岳に登れば小野子山、榛名山、そしてすぐ手前に見えるのが端正な台形の吾妻耶山です。関東百名山のひとつに数えられる秀逸の山に秋の色をもとめてのんびりと歩いてみましょう。初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方の参加をお待ちしています。

- 〔日 程〕 2016年10月22日（土）
- 〔行 先〕 大峰山（1255m）、吾妻耶山（1341m）
- 〔地 図〕 昭文社 16. 山と高原地図 谷川岳 苗場山・武尊山
- 〔集 合〕 上越線 後閑駅 9:20 集合（マイカー、電車とも）車に分乗して登山口に向かいます。新幹線を利用される方は上毛高原駅でピックアップが可能です。マイカー提供にご協力をお願いします。

吾妻耶山からの谷川岳



### 〔行 程〕

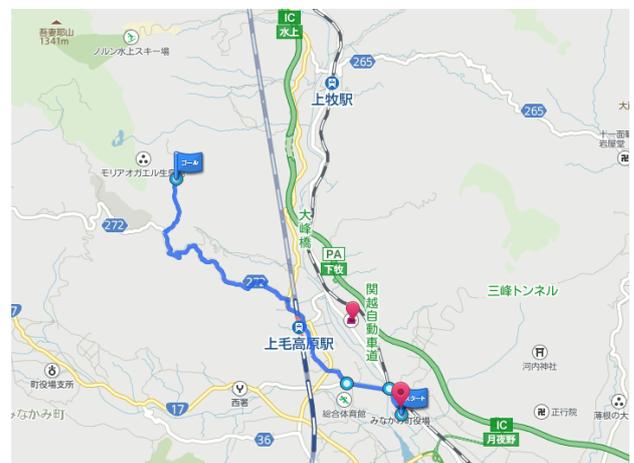
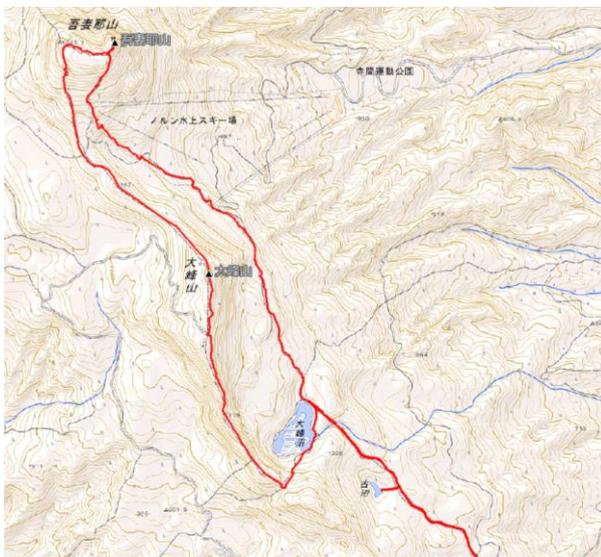
後閑駅 9:30→9:50 大峰沼登山口（駐車場、トイレ） 10:00→11:40 大峰山 12:10→13:20 吾妻耶山 13:40→14:00 ノルススキー場→14:50 大峰沼→15:30 大峰沼登山口（駐車場）→15:40 真沢の森 16:30→16:50 後閑駅

歩行距離 10.2km 標高差 462m（歩行時間4時間00分）

体★☆（=1.5） 技・危★（=1.0）（レベルはそれぞれ★は1.0、☆は0.5）

図1：登山ルート

図2：交通アクセス



- 〔参加費〕 500円
- 〔入 浴〕 真沢の森 美人の湯 500円（登山口から車で10分、後閑駅まで車で15分）
- 〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、スパッツ、防寒具、入浴セット  
沼周辺はヒルがいるので、対策品を山行委員が用意します。（20%塩水、ヒル除け剤）  
足元からの侵入を防ぐためには、靴下にズボンの裾を入れる、網目の小さいストッキング、タイツの着用が有効。
- 〔申込み〕 参加ご希望の方は9月30日までに交通手段（車、電車）をご連絡ください。  
小浜一好（17期）山口貢三（18期）小野恵美子（34期） メール：sanko-ywob@ywob.com

## ■ 苗名小屋便り

OB小屋委員長 榎本吉夫（12期）



5月28日山菜てんぷらを饗する5期諸角夫妻

100年ぶり(?)と誰かが言っておりましたが、例年がない少雪の冬で、5月連休には小屋北側に少々の残雪があるだけで、いつものような数十cmの残雪が周辺には全くありませんでした。連休の小屋入りは、4月30日(土)、5月1日(日)に14期小口さん、榎本、5月3日(火)、4日(水)に15期萩生田さん、5月7日(土)、8日(日)に榎本でした。残念ながら、現役諸君は都合がつかず小屋入りはありませんでした。小屋への倒木は、大事に至らなく幸いでした。倒れた木には特に腐食等は見られず、春先の風による倒木だったようです。小屋に近い、さらに太いカラマツでしたら、小屋倒壊の恐れもありますので今後も心配ですが・・・。

5月末の公式行事「山菜採り」は、5期諸角夫妻と榎本の3人でした。諸角さんは27日(金)の昼小屋入りし山菜採りをされましたが、今年はシーズンが早く進み、ほとんど採られてしまってタケノコ、フキ、蕨が少々だったそうです。榎本は28日(土)の朝到着、午前中に諸角夫妻と井戸からの水道の開通をさせました。

午後、残りのタケノコ探しをして、夕食に小屋の中で山菜てんぷらを3人で美味しくながら、静かな小屋を楽しみました。

翌29日(日)は、諸角夫妻は午前中に下山、榎本は恒例の京大ヒュッテでの笹ヶ峰音楽祭に参加、好天の春風のなか、バイオリン、チェロ、ピアノの演奏、その後のバーベキュー、ワインを満喫しました。



7月の小屋行事は予定を1週間前倒して、9日(土)、10日(日)に実施し、現役の新歓小屋合宿に合わせました。8日(金)の夜発で、29期松本車、30期笹倉車、現役車、榎本車の4台に同乗し、60期(新人)黒澤さん、南原さん、上田さん、佐々木さん、秋山さん、長嶋さんの6人、59期小西さん、58期主将福山さん、高橋さんの現役計9人と、OB54期谷口さん、斎藤さん、52

期野中さん、30期笹倉さん、29期松本さん、6月末にカメルーンより帰国したばかりの11期安藤さん、榎本の総計16名の参加でした。

土曜日は昼間雨模様でしたが、買い出し・薪割り等を分担し、夕方から雨も上がり恒例のバーベキューを楽しみました。翌日曜日は晴れ、午後の帰りまで小屋周辺、駐車場、林道入口～小屋間の草刈を実施しました。



7月9日恒例のバーベキューをする現役諸君



7月10日小屋新歓参加現役諸君



草刈する現役諸君



バーベキューを楽しむ現役諸君



薪割りに興じる現役諸君



7月9日小屋でくつろぐ現役諸君

8月のお盆週間の小屋入りは、14日(日)、15日(月)に小口さん、松本さん、榎本の3人でした。生憎の雨模様でしたが、晴れ間をうかがって、小口さんが小屋前のカラマツ林の下草刈り、松本さんは燃料などの小屋備品補充のための買い出し、榎本は床下の点検、2階・トイレの清掃、井戸の水位計測のトライ等をおこないました。また、杉野沢の岡田さん宅に預けてあったスキーやスノーシューなどを小屋に運びました。五八木荘のあとには新しいお宅が建ち、引っ越しされた直後でしたが、小口さんとお邪魔し元気になられた岡田さん、奥さんとお会いしてきました。



岡田さん新宅



8月のスキーゲレンデ、  
小屋、小屋庭、  
バーベキュー風景

【 今後の予定 】

10月秋の小屋行事(きのご狩り、山行他) 8日(土)~10日(月)

11月小屋締め 5日(土)、6日(日)

## ■ YWV「歴史資料館」のご案内

部史編纂委員 木村善行（17期）

部史編纂委員会では、1957年の創部以来のYWVの活動に関する資料の収集・保存を進めており、その結果をインターネット上のサイト「歴史資料館」にて公開しています。

主な収蔵物は、

- ①公式ワンダリング全記録（日程・コースや参加者名など）
- ②各種文書類（スカイライン・山小屋日記・計画書・山行報告書・遭難報告書など）
- ③写真（総数1,700枚を超える膨大な量です）

で、YWVで活動した皆さんにとって懐かしい記憶を呼び覚ますものばかりです。ぜひ一度ご覧になってください。

なお歴史資料館は個人情報保護の観点から、世間一般誰もが見られるオープンページと、OBだけがパスワードを入力して閲覧できるログインページの二層構造になっており、収蔵資料の大部分はログインページに保存されています。したがって歴史資料館を訪問された際は、ぜひログインページまでお入りください。

歴史資料館は、GOOGLEなどの検索サイトで「YWV 歴史資料館」と検索すればすぐ見つかります。ログインページへの入り方は、次の二箇所にて案内動画で紹介していますので、これに従って操作ください。

- ①YWV OB会ホームページの上端タグの「歴史資料館」→→「会員ログインの方法」
- ②歴史資料館トップページの上端タグの「利用案内」→→「使用法動画案内はこちら」

なお写真はOBの皆さんも追加掲載することができますので、お持ちのアルバムから積極的に投稿してくださいようお願いいたします（これにより収蔵写真が充実します）。また既に収蔵されている写真にコメント（EX. 写っている人の名や撮影地など）を書き込むこともできます。これらのことは材料を持ち合わせていない部史編纂委員会のメンバーではできないことですので、OBの皆さんの積極的なご協力をお願いいたします。

（こんな写真が多数あります）



公式W 339番 1965年07月 夏合宿1隊(下北)-04

## ■ 部室に蘇る！青春の記録

部史編纂委員 笛木久栄（19期）

国大部室の資料室の整理がやっと終わりました。途中、18期の堀内さん、28期の楠本さんにお手伝いして頂きながら、部室のダンボールの中に眠っていた懐かしい史料を手にとって見て頂ける状態になりました。

以下のように分類して資料室のロッカーに保管しましたのでご報告いたします。

期別ファイル（1期～49期）、友垣、遺稿集、スカイライン、山の音、他  
大学資料、連合関係、山小屋関係、ワンダリング記録書、計画書、活動記録、アルバム、写真、スライド、スライド映写機、地図、スキャナー、HDD関係、OB会関係、事務用品、手紙、マスターファイル、その他です。

期別ファイルについては、部室で保管されていた状態で、各々の期別のボックスに入れてあります。期がまたがっているものについては、なるべく当時の執行部学年の所に入れるようにしました。

紙の色が変色していたり、当時の印刷で読みにくい箇所もあると思いますが、手書きの資料の持つ懐かしさもあるのではないのでしょうか？OB総会の折にでも部室に立ち寄り、手にとってご覧いただければ幸いです。

整理するのに、4年近い月日が経ってしまいましたが、一人部室で資料を手にとっての作業は、私も含めてOB、OGの皆様の青春の日の山への思いやYWVの歴史を改めて感じることができ、また現役の方達によって今もその活動が受け継がれていることを嬉しく思いました。長い間、資料の整理を任せて下さり、このような豊かな時間を過ごさせて下さったOB会の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。



ラベルも貼られ、どこに何があるかは一目瞭然です！



ああ、懐かしの「友垣」



スライドはミカン箱2箱分も



資料に大感動のOB

### 「14期生 40数年ぶりに集う」

YW14期生の9名（男性6名、女性3名）が、平成28年2月27日に東京駅近辺の飲食店で40数年ぶりに集まりました。丸の内側駅舎を窓越しに見ながら12時から3時間半ほどの会食で、飲料の消費は昼間なのか思ったほど伸びず安く上がりました。

皆さん65歳近辺になるので暇かと思いきや何かと誰かが忙しく、参集に賛同をいただいた後の日程調整に長引き4ヶ月を要しての集いでした。当初はどこかで一泊も考えましたが、各人がだいぶ離れて生活をしていることから集まり易い昼食を兼ねた飲食としました。同期の12名に声を掛け当初は11名が集まる予定でしたが、男性の2名が直前の急用により欠席することになり、残念ながら9名の参加にとどまりました。

体型が少し変化している方が若干名いましたが、皆さん学生時代の面影が色濃く残っており、話し方も昔のまま、顔さえ見なければ年齢をお互いに重ねた観は感じられない程で懐かしさを感じられるものでした。

近況の話がメインで、学生時代の話はあまり出ていませんでした（考えてみればパーティーに分かれての活動が多く、全員で集まる機会は少なかったかと思います）。子供の手は離れている方が多いのですが、学生を養っている方はまだまだ苦勞している様子でした。女性陣からの親を看病してきた苦勞話や男性陣からの会社での愚痴などのむかし話を感心しつつ聞き入っていた次第です。

山の話では、最近若い人々に追い抜かれたりすれ違う機会が前より多くなった感が寄せられたり、内臓脂肪を減らすために大変な思いをしつつ山行するようにしているが、風景が刻々と変化して晴れやかになる気がしている様子が寄せられています。

最後の方で1年生のときの昔の名簿が小口くんより回覧され、保存していたのにも驚かされましたが、当時は30名くらいの方が在籍していたことに感心しました。



今回の集いでは、（左下から）水本(曾根原)さん、上野(西井)さん、狩野さん、小口君、高木君、鶴岡君、吉田、鶴飼君、下田君が参加しました。次回はいつになるか不明ですが、より多くの方が参加できるようにしたいものです。

「ブチャマレコ連載第4弾」私のおすすめ近畿低山10/40選

近畿には梅田から1時間以内で登山口に行ける、手軽でかつ歴史溢れる名山が多数あります。今回第4弾となりますが、2010年以降訪れたお薦めの山をご紹介します。日ごろ運動不足で体力に不安がある方にはモッテコイです。

	<p><b>①交野山 (こうのさん 341m 大阪府交野市倉原 2011/7/17登頂)</b></p> <p>大阪駅からJR学研都市線(片町線)で約30分、津田駅下車。駅から南へ10分くらいで機物神社。七夕伝説で知られる神社で祭神の天棚機比売大神は織姫にあたる。左に曲がり30分で修験者の修業の場、源氏滝。登り約1時間で山頂だ。山頂には大きな岩がある。展望よく、比叡、北摂、六甲、金剛、葛城の山々が見渡せる。生駒山系の最北端にある交野山は、ご来光のすばらしさから交野八景のひとつとなっている。登った道を戻り、津田駅まで。大阪、北新地にはあっという間に戻れるので「粉もん」で一杯やりましょう。</p>
	<p><b>②昭和三山 (しょうわやま 33m 大阪市大正区 2011/8/7登頂)</b></p> <p>JR環状線大正橋駅下車約30分で千鳥公園に着く。昭和三山は1970年大阪万博の前に地下鉄工事で出たダンプ57万台分の土砂で造成された新山である。33mの山頂は横浜よろしく、「港の見える丘」と呼ばれる。周辺には5万本のソウジカ植えられ、一大名所となっている。大正区の名所かつ区民の足である「渡し舟」は無料で利用できるそうだ。周辺は沖縄の人が多く、ぜひ、沖縄料理屋でチャンプルをあてにビール煽り、ソーキそばで締めたい。</p>
	<p><b>③仏徳山 (ぶつとくさん 132m 京都府宇治市2011/9/19登頂)</b></p> <p>JR大阪駅から環状線で京橋駅に行き京阪電車に乗り換え宇治駅まで行く。所要約1時間。京阪線宇治駅からは宇治川を渡らず川沿いを行くと宇治神社に入る。さらに世界文化遺産である宇治上神社を超え仏徳山(地元では大吉山とよばれる)登山路に入る。小一時間で山頂に。山頂からは西側の展望がよく、真下に宇治の平等院、遠く六甲山なども望める。下山後は宇治川を渡り、世界遺産の平等院を訪れたい。ただ1時間は順番待ちとなる。宇治ではやはり抹茶と茶そばを賞味しなければならない。</p>
	<p><b>④竜王山 (りゅうおうざん 321m 大阪府交野市 2012/2/12登頂)</b></p> <p>大阪、北新地駅からJR学研都市線(片町線)に乗り、30分で河内磐船駅下車。北東方向に1km強集落を歩き、石の道標やお地藏さんを越えると住吉神社に着く。すぐ先に、中世から熊野詣や戦国武者の馬がが道で大和と河内を結ぶ「かいかげの道」の道標がある。しばらく登ると鳥居があり、それをくぐり急登すると山頂だ。展望はあまりないが、弘法大師が雨乞いしたと伝わる竜王石は趣がある。ここも梅田まで近いので、曾根崎お初天神あたりで反省会をしましょう。</p>
	<p><b>⑤小塩山 (おしおやま 642m 京都市西京区 2012/3/10登頂)</b></p> <p>阪急梅田駅から京都線で東日向駅下車。阪急バスで南春日町まで入る。西へ歩き東海自然歩道を金蔵寺方面へ。竹林の歩道、長峰寺を過ぎ1時間で創建718年、桂昌院が再建した紅葉の名所金蔵寺に着く。本堂右横階段を登り20分ほどで天皇陵道分岐。ここから尾根道、一旦車道に出て金蔵寺から1時間弱でテレビ塔がある東峰に着く。カタクリやカタバミの自然の宝庫。車道に戻り100mほどで車止め柵、竹のガートの先に享和天皇陵がある西峰。お参りし分岐から千原池経由で南春日町へ下る。清らかな気持ちでお神酒で反省会をしましょう。</p>

	<p>⑥妙見山 (みょうけんさん 660m 兵庫県川西市 2012/4/29登頂)</p> <p>阪急梅田駅から宝塚線で川西能勢口駅経由能勢電鉄で妙見口駅下車。梅田から50分。20分ほどでケーブル駅に着き右側から沢沿いの登りとなる。妙見大権現の鳥居をくぐる。シャガが沢沿いに群生している。約一時間で妙見山上の駐車場に着く。三角点までは参道を登る。山頂付近は日蓮宗の霊場で参拝客が多い。帰路は妙見ケーブルで、この時期八重桜を見ながら快適に下ろう。</p>
	<p>⑦妙見山、星田妙見宮 (ほしだみょうけんきゅう 143m 大阪府交野市 2012/12/24登頂)</p> <p>北新地からJR学研都市線約30分で星田駅下車。駅から約1時間で星田妙見宮の入口に着く。石段を登れば妙見山山頂につく。星田妙見宮にご神体の大岩は弘法大師が秘法を唱えた時に落ちてきた北斗七星と伝わる。同地、妙見の森は散策する人が多く、宅地開発で水源・杉林が消えたものの、地元の方々の頑張りで古代の大阪平野の自然が残る保全地区である。</p>
	<p>⑧仏隆寺・唐戸峠・室生 (からととうげ 665m 奈良県宇陀市 2013/2/16登頂)</p> <p>上本町駅から近鉄大阪線で45分、榛原駅下車。奈良交通バスで15分で高井バス停に入る。左室生山女人高野の道標に従い川沿いロード約45分で創建850年、樹齢千年の山桜で有名な仏隆寺だ。山道20分で休憩所がある唐戸峠(室生峠)。屋根付休憩所があるカヲ池を越え、峠から約1時間半で室生に着く。女人禁制の高野山に対し女人参拝を許した室生寺は気品ある五重塔で有名。ゆっくり参拝し、バスで室生口大野駅へ、近鉄で上本町に戻る。</p>
	<p>⑨鶏冠山 (けいかんざん 570m 滋賀県栗東市 2016/1/11登頂)</p> <p>大阪駅からJR京都線50分で草津駅、バス25分で上桐生バス停下車。沢沿いの道を「落ヶ滝・天狗岩」の道標に従って登り、落ヶ滝分岐まで40分。40mの素晴らしい滝。分岐に戻り、ロープがある花崗岩の道を登り30分で北峰縦走路出合に取り付く。狭い尾根を北へ30分 鶏冠山に着く。琵琶湖、比良山の展望あり。出合に戻り縦走路を南に登り約40分で天狗岩(写真)到着。湖南アルプスという名の通り展望良く素晴らしい岩山が続く。耳岩、白石峰、重岩、国見岩の尾根を楽しみ、南谷林道出合経由約2時間でオランダ堰堤を過ぎ、上桐生バス停に着く。</p>
	<p>⑩飯道山 (はんどうさん 664m 滋賀県甲賀市 2016/5/21登頂)</p> <p>大阪駅からJR京都線50分で草津駅経由草津線で貴生川(きぶかわ)駅下車。西へ向かい仙川(そまがわ)を渡り、貴生川小学校の先から山道に入る。約90分岩坪不動尊休憩所まで一本。ロード30分で展望が開けると杖の権現休憩所で一気に15分急登すると2等三角点の山頂だ。展望よく、東に水口の街並、北に三上山(近江富士)、比良山系。山頂からは南西に30分一気の下ると飯道神社だ。近江の大峰山と言われ天台宗の修験道場として栄えた。宮町登山口、ゴルフ場を過ぎると飯道神社の大鳥居がある。信楽高原鉄道の紫香楽宮跡駅まで1時間強の快適なロード。同駅から貴生川駅、草津駅経由で帰路につく。</p>

<これまでのプチャマレコは以下の通りです。軽い山歩きのご参考まで>

第1弾(会報54号):

二上山(奈良)、金剛山(大阪)、高取山(奈良)、須磨アルプス(兵庫)、曾爾高原(奈良)、竹田城(兵庫)、葛城山(奈良)、伊吹山(滋賀)、熊野古道(和歌山)、蘇鉄山(大阪)

第2弾(会報56号):

天王山(京都)、大文字山(京都)、金比羅山(京都)、摩耶山(兵庫)、甲山(兵庫)、賤ヶ岳(滋賀)、比叡山(滋賀)、矢田丘陵(奈良)、最勝ヶ峰・箕面滝(大阪)、きぬがさ山(滋賀)

第3弾(会報62号):

飯盛山(大阪)、信貴山・高安山(奈良)、ポンポン山(大阪)、茶臼山(大阪)、吉野山(奈良)、三上山(滋賀)、虎御前山(滋賀)、六甲最高峰・東お多福山(兵庫)、高御位山(兵庫)、深山・るり溪(京都)

## ■ 現役部員の活動紹介

主将 福山大地 (58期)

58期主将の福山です。YWW 現役の活動内容をご報告させていただきます。

8月4日～8日の5日間でYWWの一大行事である夏合宿を行いました。以下に詳細を記載します。

日 程：8月4日～8日

参加者：学部3年 4名

学部2年 3名

学部1年 3名 計10名

行 先：北アルプス(双六岳、鷲羽岳、水晶岳、雲ノ平)

行 程：初日 首都圏発→新穂高温泉登山口→わさび平小屋

2日目 わさび平小屋→弓折岳→双六岳→三俣蓮華岳→三俣山荘

3日目 三俣山荘→鷲羽岳→水晶岳→祖父岳→雲ノ平キャンプ場

4日目 雲ノ平キャンプ場→太郎岳→薬師峠テント場

5日目 薬師峠テント場→折立登山口

今年度は北アルプスの山々を目指しました。コースですが、5日間もいるということで秘境中の秘境と言われる雲ノ平を目指すことにしました。大平原を一望できる雲ノ平に行けるということで、計画段階から楽しみだったのを思い出します。しかし、全体の行動時間が非常に長くなってしまい、全行程を無事遂行できるか不安で一杯でした。食糧計画においても懸念材料が多く、新錬における反省を活かし試行錯誤を繰り返して計画を練っていきました。

初日こそ悪天候でしたが、電車やバスでの移動がほとんどだったため大きな影響はありませんでした。2日目以降はずっと晴れで景色もよく最高の登山日和となりました。本当にありがたいものでした。2日目に高度を一気に1400mほど上げ、行動時間も10時間を超えたことから全員かなり疲れ切ってしまいました。3日目は短縮コースも考えましたが皆頂上を踏みたいという思いが一致し、百名山である鷲羽岳と水晶岳も無事登頂することができました。そして雲ノ平へと向かいました。到着した時には皆疲労が溜まりきっていましたが、広大な景色に終始感動もしていました。4日目以降は下山を目指すだけとなり、5日目の朝7時頃に無事下山しました。

北アルプスの雄大な景色には終始感動しておりました。高校から山岳を経験している副主将がほぼすべての計画を考え、非常にいい山行にしてくれました。全体的に行動時間が長く、高低差の激しい日もありながら、よく全員が全行程を成し遂げられたものだとも思います。特に後輩のスタミナの凄さには感心しており来年度以降、安心して登山計画を任せることができそうです。行動時間・コースの都合上、槍ヶ岳や黒部五郎岳、薬師岳に登ることができませんでしたので、またいつか登りに行こうと思います。

今回は比較的体力のある者が多かったため無事怪我なく終えられたものの、夏合宿に向けた日頃からの体力づくりが必要だったかなと感じました。また、山で作る料理においても研究が必要であるように思いました。

今後の活動としまして、秋山登山、追いコン、スキー合宿などの活動を考えております。また、本年度は常盤祭におきまして、ワンダーフォーゲル部で食べ物店を出店する予定ですので、是非足を運んでいただければと思います。



雲ノ平方向を望む大パノラマ



下山地である折立での集合写真  
皆いい笑顔です

**今年もみんなに参加しよう！**

**10月29日（土）**

**YWV OB 総会・ワンゲル企画展**

**YNU ホームカミングデー**



**常盤祭 YWV 現役模擬店**

詳細は2ページのOB総会案内をご覧ください

**第11回 横浜国立大学ホームカミングデー**

キャンパス  
マップ

アクセス  
案内

日時：2016年10月29日（土）10：00～16：00 場所：常盤台キャンパス（横浜市保土ヶ谷区常盤台）

テーマ：YNUの今とこれから

トップページ
イベント情報
交流会
各同窓会へのリンク
これまでの様子
Q&A

横浜国立大学ホームカミングデーは、  
同窓生、学生、教職員、本学に関係ある人々がキャンパスに集い、  
種々のイベントに参加することによって旧交を温め、また、  
学部、世代、属性の垣根を越えて親睦を深めるものです。  
この「繋がり」がYNUを支えていく礎になることを期待しています。

**お問合せ**

ホームカミングデー実行委員会  
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1  
横浜国立大学 校友会事務局

TEL: 045-339-3177  
Mail: hcd@ynu.ac.jp

**横浜国立大学 校友会** **YNU** 横浜国立大学

## ■ OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎（2期）

会計幹事 松本 和之（29期）

OB会報第63号に同封しました払込取扱票は、2017年度（2016年10月～2017年9月）OB会費等をお振込いただく用紙です。ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATMからお振込みください。

- ・年会費：2,000円（2017年度の年会費）  
払込取扱票に「〇〇年度までの会費は納入済みです」と記載のある場合は年会費のお振り込みは不要です。寄付金、最新名簿郵送料等のお振り込みにご利用ください。
- ・前納会費：10,000円（2017年度～2022年度の6年間の年会費前納分）
- ・寄付金：（一般、小屋）のどちらかを○で囲んでください。
- ・最新名簿郵送料：500円（希望者のみ）

払込手数料は5万円未満の場合、窓口130円、ATM80円です。

払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行で用紙を買い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

口座番号：00290-3-2419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

### ★他の金融機関からの振り込み

他の金融機関からも振り込むことができます。その場合、預金種目、口座番号は下記のとおりです。手数料は各金融機関、振込み方式によって異なりますが、3万円未満の場合は216～648円です。

銀行名：ゆうちょ銀行（9900）

店番：029

店名：〇二九店（ゼロニキュウ店）

預金種目：当座

口座番号：0002419

カナ氏名：ヨコハマコクリツダイガクワンダーフォーゲルブオーヒ

### ダンチョネ節口上を探る

10月29日に今年もOB総会と同日にホームカミングデーが行なわれ、その中のプログラムに立食で歓談や催し物を楽しむ交流会があります。その交流会のトリを飾るのがYWVのOB・現役がリードする「みはるかす」斉唱です。20期安武さんの口上から始まるのはもう毎年の恒例です。この口上は山で歌ったダンチョネ節の口上であることにお気づきの方も多いでしょう。しかし、ダンチョネ節は神奈川県三浦市三崎の民謡なので、「富貴名門の子女に・・・」の口上はどう考えても不釣り合いだと思います。そこで今回の「観天望記」は多少残ったページを使って、ダンチョネ節の口上とは何なのかを探索してみました。

#### 1. まずは、ダンチョネ節とは

ダンチョネ節（歌詞はスペースの関係で割愛）は前述しましたように三崎の民謡で、港町の花街で三崎甚句と共に歌われてきたものだそうです。「ダンチョネ」とは「断腸の思い」とか「ただの漁師の掛け声」とか諸説あります。真面目で偉い団長さんでさえもねえ～、という意味の「団長さんもね」という説もあるそうです。

詩の内容は船乗りの悲哀ですから、個人的には「断腸の思い」が一番しっくりきます。悲哀の歌ですので民謡から離れ、沢山の替え歌が大正から昭和に掛けてできたようです。代表的なのは軍隊での替え歌で、やはり悲哀が漂っています。特攻隊節の歌詞から一部を書き出しました。

(1番)

沖の鷗(かもめ)と飛行機乗りは  
何処(どこ)で散るやらネ  
果てるやらダンチョネ

(5番)

飛行機乗りには娘はやれぬ  
やれぬ娘がネ  
行きたがるダンチョネ

見覚えのある歌詞に近いでしょう。我々が歌ったダンチョネ節はこの軍隊の替え歌を基に更に「山の男」を入れた替え歌と考えられます。ネットワンダリング（注）してみると、色々な大学のワンゲルや山岳部で微妙に歌詞が違うダンチョネ節を多く見ることができます。どこかのホームページには戦後、山岳ブームと共に山バージョンのダンチョネ節が大学間で流行ったと書いてありました。

（注：「ネットサーフィン」という言葉がありますが、我々はワンゲルですので、勝手に「ネットワンダリング」と言う言葉を作ってみました）

#### 2. では、口上は何処から

更にネットワンダリングをしていると見つかりました。「蒙古放浪歌」です。昭和初期に流行った歌で蒙古の砂漠を舞台に大和男子の血潮を歌ったものです。後に鶴田浩二さんや加藤登紀子さんも歌っていました。メロディーや歌詞はダンチョネ節とは全く異なる歌ですが、この歌には「序文」というものがあります。見ればすぐに、「これがダンチョネ節の口上のルーツだ！」と感じます。以下、蒙古放浪歌の序文を書き出しました。

富貴名門の子女に恋するを純情の恋と誰が言う  
路頭に彷徨う女性に恋するを不純の恋と誰が言う  
雨降らば降るがよい 風吹かば吹くがよい  
泣いて笑って月下の酒場にこび売る女性は  
水蓮の如き純情あり  
酒は飲むべし百薬の長  
女は買うべし人生無上の快樂

幼少美女の膝枕に快樂の一夜明ければ  
夢もなし また金もなし  
砕く電剣握る美林  
のぞくコンパス六分の儀  
ああ我山行 渡鳥  
いざ唄わんかな 蒙古放浪の歌を

今度は山ではなく海です。この歌を基に水産系の大学や学部（旧東京水産大学や北海道大学など多数）を中心に「水産放浪歌」や「水産逍遥歌」という名の替え歌が寮歌としてできた様です。そしてその序文も同様に替えられ、特に最後の四行は替えやすいので色々なバージョンがあります。以下例として2つ書きます。

- 叩く電鍵 硬く握る操舵機、我ら海の子鷗鳥、明日の命と誰ぞ知る、いざや歌わんかな水産逍遥歌
- 響く雷鳴 握る舵輪、睨むコンパス六分儀、吾等海行く鷗鳥、さらば歌わん哉 吾らが水産放浪歌  
(単語で意味の分からないものは調べましたが、スペースの関係で割愛)

### 3. ついに合体、口上とダンチョネ節

大学の山岳系クラブで歌われていたダンチョネ節と水産系の大学などの寮歌として歌われていた水産放浪歌の序文が、大学内で合体したとしても不思議ではありません。元は替え歌ですから、変化したり良いと思っただものを取り込むのは当たり前だったのでしょう。残念ながら合体のルーツは見つかりませんでした。我々が知っているダンチョネ節の口上と歌が、このようなルートで出来上がったことは間違いないと思います。

最後に YW 1977 年歌集に書かれていたダンチョネ節の口上を下記します。歌集通りの原文を書き、小生が本稿作成の過程でこちらの方が正しいのではないか、と思う漢字等を括弧で追記しました。

風紀（富貴）名門の子女に恋するを純情の恋と誰が言ふ ヨイシヨ  
路頭にさまよう女性に恋するを不情（不浄）の恋と誰が言ふ ヨイシヨ  
雨降らば雨降るよし 風吹かば風吹くよし  
泣いて笑って月下の酒場にこび売る女性の中にも  
水蓮のごとき純情あり ヨイシヨ  
酒は飲むべし百華（百薬）の長 女買うべし人生至上の快樂  
幼少（妖娼）美人の膝枕に快樂の一夜を明くれば  
（夢もなし また金もなし）  
流れる汗にザイルをかつぎ、かじかむ腕にピッケルかかげ  
ああ我等山行く渡り鳥 明日の会（命）を誰か知る



尚、本稿はネットを中心に調べたものであり、更に替え歌や伝承のため変化を起こしていますので、内容はあくまで私見で歌詞も正確かどうかはわかりません。ですので誤りがあっても「ダンチョネ」と言って、大らかな気持ちで読んでいただければと思います。また、口上には女性に対する不謹慎な表現がありますが、原文のままにしました。昔の話だからということでご容赦ください。



(おまけ)

ちなみに、八代亜紀さんの舟歌の中にダンチョネ節が挿入されていますが、「沖のカモメに深酒させてヨ・・・」は作詞家阿久悠さんの創作だそうです。これも一種の替え歌ですかね。



田貫湖畔からの富士山

2015. 1. 25

撮影 青山氏(20)

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。自由投稿の原稿、写真、スケッチ等どしどしお寄せ下さい。

宛先： 石垣秀敏（20期）、武藤功二（20期）、成島和仁（22期）

メールアドレス kaiho-ywvob@ywvob.com

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

### YWVOB 会 会報第 63 号

発 行 行： 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会  
発 行 日： 2016年9月19日  
発 行 責 任 者： 会長 鈴木弥栄男(9)  
編 集 責 任 者： 編集委員長 石垣秀敏(20)  
編 集 集： 編集副委員長 武藤功二(20)、編集委員 成島和仁(22)  
印 刷 所： 株式会社プリントバック 京都府向日市森本町野田 3-1